
平成27年度 訪問看護出前講座・同行研修実施報告書

実施状況

1. 出前講座

実施病院数：3病院（9/10 東京聖徳病院、10/30 練馬総合病院、12/8 順天堂練馬病院）

参加者数：87名（内訳：医師3名、看護師60名、ヘルパー7名、事務6名、その他11名）

協力訪問看護ステーション：3事業所

2. 同行研修

実施病院数：3病院（順天堂練馬病院、練馬光が丘病院、浩生会スズキ病院）

参加者数：18名（全て看護師）

協力訪問看護ステーション：12事業所

※今年度は同行研修後の「振り返り研修」を1病院で試行的に実施

実施内容：①同行研修参加者による研修内容の発表

②病院と訪問看護ステーションの双方が日頃疑問に思っていること、不安に感じていること、退院支援の方法や考え方などについての意見交換

【意見交換のテーマ】

ア 退院から在宅医療（療養を含む。）への移行を円滑に行うために、入院から退院時までにどのような退院調整を実施するのが望ましいか。

イ 退院から在宅医療（療養を含む。）への移行を円滑に行うために、お互いにどのタイミングでどのような情報を共有することが望ましいか。

ウ 在宅医療中の患者が緊急入院することになった時、どのタイミングでどのような情報を共有することが望ましいか。

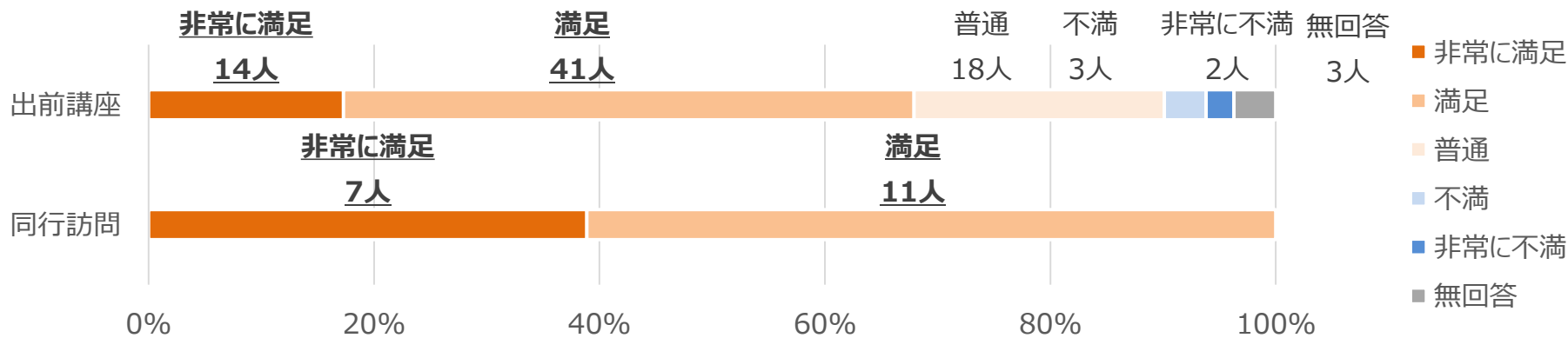
参加者数：21名（うち訪問看護ステーションから9名参加）

満足度

- 出前講座について、参加された方の**68%**が満足した。
- 同行研修について、参加された方**全員**が満足した。そのうち35%の方が非常に満足と回答。

満足度

	出前講座			同行研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に満足	14人	17.3%	17.3%	7人	38.9%	38.9%
満足	41人	50.6%	67.9%	11人	61.1%	100%
普通	18人	22.2%	90.1%	0人	-	-
不満	3人	3.7%	93.8%	0人	-	-
非常に不満	2人	2.5%	96.3%	0人	-	-
無回答	3人	3.7%	100%	0人	-	-

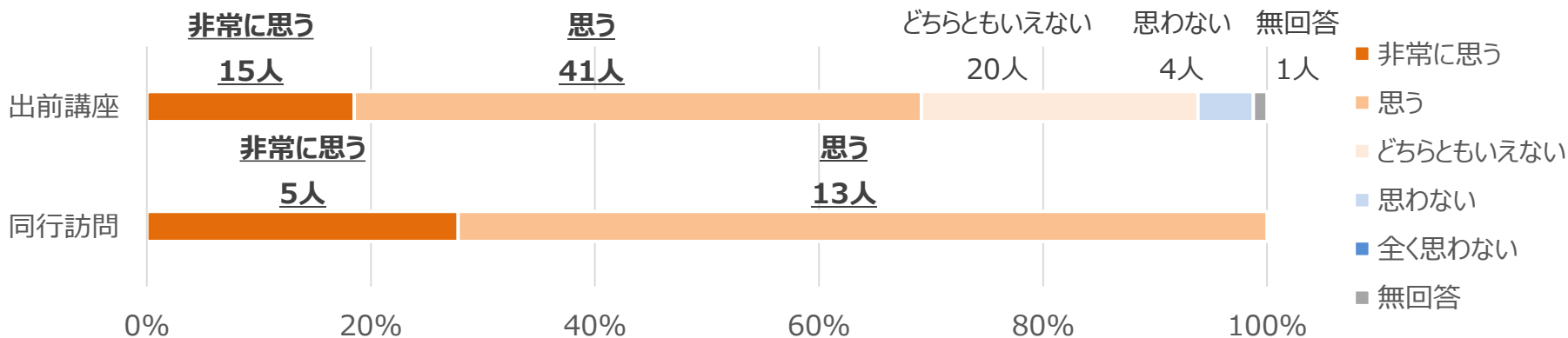


訪問看護をはじめとした在宅療養の理解度①

- 出前講座に参加された方の**69%**、同行研修に参加された方**全員**が、在宅療養で看ることが出来る患者像のイメージが具体的になったと感じた。

(1) 在宅療養で看ることが出来る患者像のイメージが具体的になったか？

	出前講座			同行研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に思う	15人	18.5%	18.5%	5人	27.8%	27.8%
思う	41人	50.6%	69.1%	13人	72.2%	100%
どちらとも いえない	20人	24.7%	93.8%	0人	-	-
思わない	4人	4.9%	98.8%	0人	-	-
全く思わない	0人	-	98.8%	0人	-	-
無回答	1人	1.2%	100%	0人	-	-

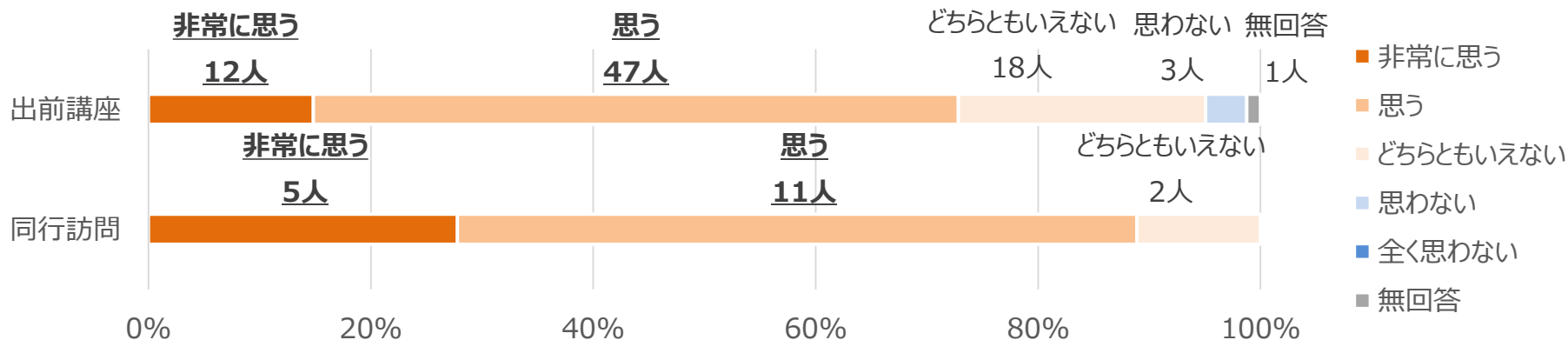


訪問看護をはじめとした在宅療養の理解度②

- 出前講座に参加された方の**73%**、同行研修に参加された方の**88%**が、在宅療養に携わる方々が求める入院中の退院支援について理解が深まったと感じた。

(2) 在宅療養に携わる方々が求める入院中の退院支援について理解が深まったか？

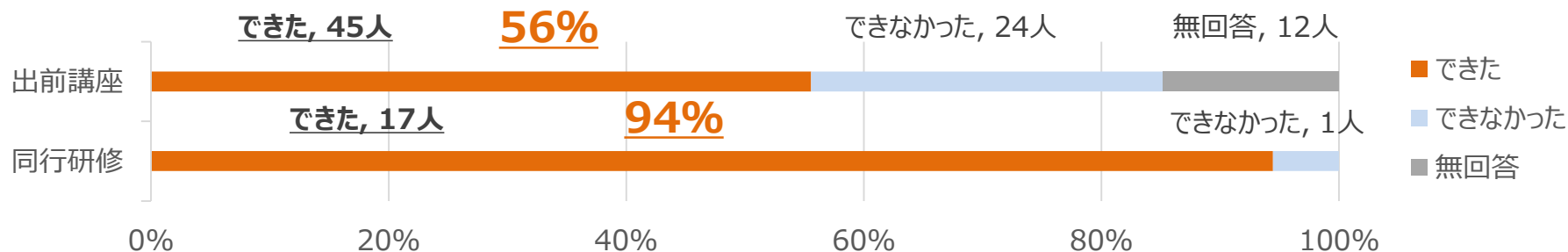
	出前講座			同行研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に思う	12人	14.8%	14.8%	5人	27.8%	27.8%
思う	47人	58.0%	72.8%	11人	61.1%	88.9%
どちらとも いえない	18人	22.2%	95.1%	2人	11.1%	100%
思わない	3人	3.7%	98.8%	0人	-	-
全く思わない	0人	-	98.8%	0人	-	-
無回答	1人	1.2%	100%	0人	-	-



普段の業務への活用

- 出前講座に参加された方の**56%**、同行研修に参加された方の**94%**が、自身が普段の業務の中でできることについての具体的なイメージができたと感じた。

あなた自身が普段の業務の中でできることについての具体的なイメージができたか？



具体的な内容 (一部抜粋)

出前講座

1. 在宅療養を希望されるご家族がいたらケアマネジャーだけでなく訪問看護ステーションにも問い合わせをしたい。
2. サマリーの書き方がイメージできるようになった。
3. 患者さんや家族への具体的な説明がしやすくなった。
4. 外来通院中の患者様で自宅生活が心配な方の相談を訪問看護ステーションに行おうと思いました。
5. 今まで訪問看護のサービス内容について何でもMSWへ聞いたりしていたが、この資料をもとに自分でも家族へ説明できることもあると思いました。訪問看護の費用も参考になりました。退院前カンファレンスをするようになります。
6. 入院した時点でどういう状態で退院させるのかをイメージするということ。自宅で介護することを躊躇う家族へ社会資源を紹介することで「1人で介護しなくてもよい」ということをイメージしてもらい、訪問看護師との中継をしていくということ。

普段の業務への活用

具体的な内容（一部抜粋）

同行研修

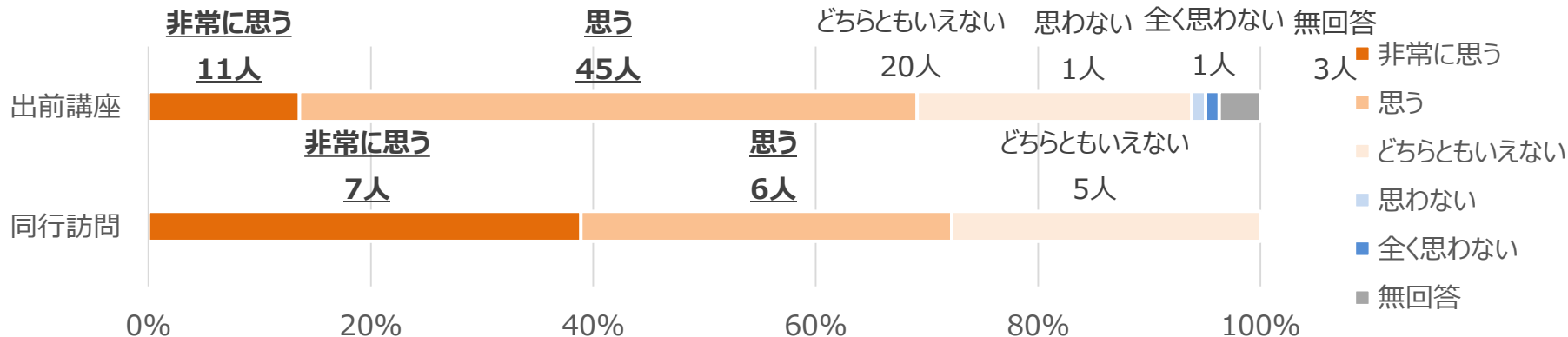
1. 実際の現場を経験することで、訪問看護師宛の看護サマリーがより具体的に書けるようになったと思う。
2. 電話でも良いので訪問看護師と情報交換することや退院前カンファレンスを行うことが大切だと感じた。
3. 家族についての情報を在宅スタッフにより多く提供することを意識したい。また、ADLについてどのように介助するかなど、ケアの方法についても言及していこうと思う。
4. 老々介護で在宅ケアは困難と決めつけず、自宅へ帰るという選択肢を持ち提案すること。ケアマネジャーに連絡・連携をとることが多いが、訪問看護師とも連携ができるよう早めに情報提供できるようにすること。
5. 訪問看護を入れるかどうか迷った時は、病院の相談室に相談することが大切だと思いました。また、自宅に帰れる患者については、早い段階で訪問看護師と連携をすれば、すぐに対応できると思いました。
6. 退院前のケアマネジャーや訪問看護師とで行うカンファレンスの大切さがわかりました。
7. ケアマネジャー、訪問看護スタッフへの情報提供や、生活（退院後）を具体的にイメージして、退院指導・退院支援を行っていく。

病院と訪問看護の連携の円滑化へ向けた期待①

➤ 出前講座に参加された方の**69%**、同行研修に参加された方の**71%**が、本事業を実施した訪問看護ステーションとの連携の円滑化につながると感じた。

(1) 本事業を実施した訪問看護ステーションとの連携の円滑化につながると思うか？

	出前講座			同行研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に思う	11人	13.6%	13.6%	7人	38.9%	38.9%
思う	45人	55.6%	69.1%	6人	33.3%	72.2%
どちらとも いえない	20人	24.7%	93.8%	5人	27.8%	100.0%
思わない	1人	1.2%	95.1%	0人	-	-
全く思わない	1人	1.2%	96.3%	0人	-	-
無回答	3人	3.7%	100%	0人	-	-

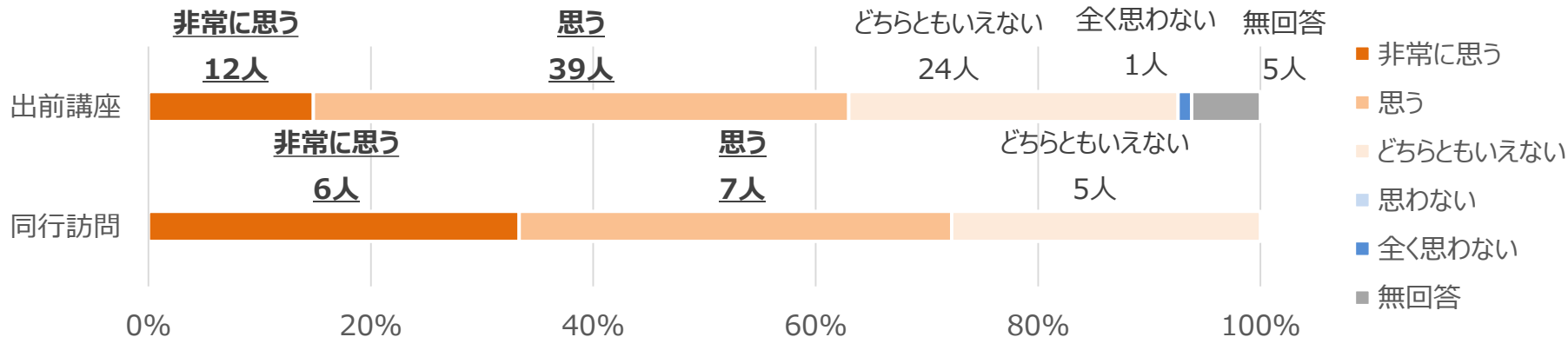


病院と訪問看護の連携の円滑化へ向けた期待②

- 出前講座に参加された方の**63%**、同行研修に参加された方の**71%**が、本事業の実施先以外の地域の訪問看護ステーションとの連携の円滑化につながると感じた。

(2) 本事業の実施先以外の地域の訪問看護ステーションとの連携の円滑化につながると思うか？

	出前講座			同行研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に思う	12人	14.8%	14.8%	6人	33.3%	33.3%
思う	39人	48.1%	63.0%	7人	38.9%	72.2%
どちらとも いけない	24人	29.6%	92.6%	5人	27.8%	100.0%
思わない	0人	-	92.6%	0人	-	-
全く思わない	1人	1.2%	93.8%	0人	-	-
無回答	5人	6.2%	100%	0人	-	-



振り返り研修の効果

- 振り返り研修で発表した方**全員**が、発表を通じて、同行研修で得た学び等を振り返る良いきっかけが得られ、また、新しい気づきがあったと感じた。

(1) 振り返り研修で発表した経験は、同行研修で得た学び等を振り返る良いきっかけになったか？

強く感じる	感じる	ほとんど感じない	全く感じない	わからない	無回答
3人 (60%)	2人 (40%)	0人	0人	0人	0人

(2) 振り返り研修で発表したことで、新しい気づきはあったか？

あった	なかった	無回答
5人 (100%)	0人	0人

出前講座に関する自由意見

(一部抜粋)

1. 病院看護師が患者・家族の退院支援に何ができるか具体的に表示されていて理解しやすかった。
2. 前回は参加しましたが、自宅に帰れるかどうか悩む前に患者さんとその家族の思いがあれば帰れるという思いを持ち、早めの相談をしていきたいと思うことができた。
3. 退院支援について積極的に関わりたく勉強していますが、自己学習では分からない現場の話を聞いて、忘れていた知識等を思い出せて良かったです。
4. 訪問看護で行なっている処置が理解できたので、サマリーを書く時のポイントが理解できた。
5. 定期的な相互実習制度。病院のスタッフが訪問看護研修は多く参加しているが、訪問看護ステーションのスタッフの病棟研修があれば相互理解が深まると思う。
6. 今回のような講座がもっとあれば良いなと思いました。
7. 医師への説明が必要だと思います。現場で看護師がどんなに理解して動いても、医師の理解がないと前に進まないことが多いです。医師は早い人でも半年から一年間で交代していきます。今の制度や訪問看護、訪問診療を取り入れることで多くの場合において在宅療養が可能になることを分かってほしい。医師の理解がないと困難化する事例が多い。病状説明や方針も医師が家族や本人へ説明するので。
8. 今回の講座で、在宅療養の大まかな全体像は理解できましたが、詳細については自分で勉強しないければと感じました。訪問看護で対応できる方の症例をあげてのお話はわかりやすかったです。ただ、対応できない方の例も教えていただきたかったです。
9. 連携を目的としての講座なら、現在非常に困惑している解決したい課題など、マイナス面も出した方が円滑な連携と運営の質の向上に繋がると思います。
10. 今回の研修の事例では訪問看護が短期間でも介入できたものばかりだったので、介入できなかった事例もあると良かったです。経済的余裕、家の広さ(ベッドやトイレを置くスペース)、マンパワー(家族)がないと在宅で看ることは難しいのではないかと感じました。特に認知症の方は24時間助けが必要です。在宅看護について、一度も携わったことがなかったのでこの研修をきっかけに理解を深めていこうと思います。

同行研修に関する自由意見

(一部抜粋)

1. 病院から在宅へ移行する際、どのような情報が大切になってくるのか具体化できた。
2. 訪問看護師さんの病院看護師に入院中やってもらいたいことなどの意見を多くいただけたので、今後の退院調整に活かすことができると思う。
3. この患者さんは自宅でどのように過ごしているのだろうかとよく思うことがあり、現状を見ることで少しイメージできたと感じた。また、訪問看護を行う側の視点で考えることが今後よりできると感じた。
4. 在宅へ帰った患者さんの様子や訪問看護師の役割を見て学ぶことができたため、とても有意義な時間を過ごすことができた。
5. 同行研修をさせていただき、病院と在宅での生活の違いや環境、部品の使用頻度、置き場所など各家それぞれ違いもあり勉強になりました。また、家庭に他人が入っていくにあたりご家族との信頼関係の構築が必要であること。そのためにも患児さんやそのご家族と十分なコミュニケーションをとることが重要であり、それは病院から在宅に移行する上でも必要なことであると改めて学ぶことができました。今回学んだことを病棟で発揮し、スタッフ間に伝え病棟から在宅へ円滑に連携ができるようにしていきたい。
6. 今回のような同行研修を今後も継続してほしい。他の病棟スタッフにも行ってほしいため。
7. キーパーソンが高齢者で、吸引やオムツ交換、体位変換、経管栄養が必要な方がおり、どのように行っているのかが見れた。在宅では介護者の負担もあるため、完璧は求められないと感じた。ポイントをおさえた指導が必要であると思った。
8. 比較的軽症な方を訪問させていただいたように思う。患者像もだが、訪問看護やヘルパー、訪問リハが介入する家庭の雰囲気や老々夫婦をサポートする体制を整えて在宅ケアが成立しているところが見れてよかった。
9. 他施設からの退院サマリーを拝見し、コンパクトで当院より良いように感じた。

振り返り研修に関する自由意見

(一部抜粋)

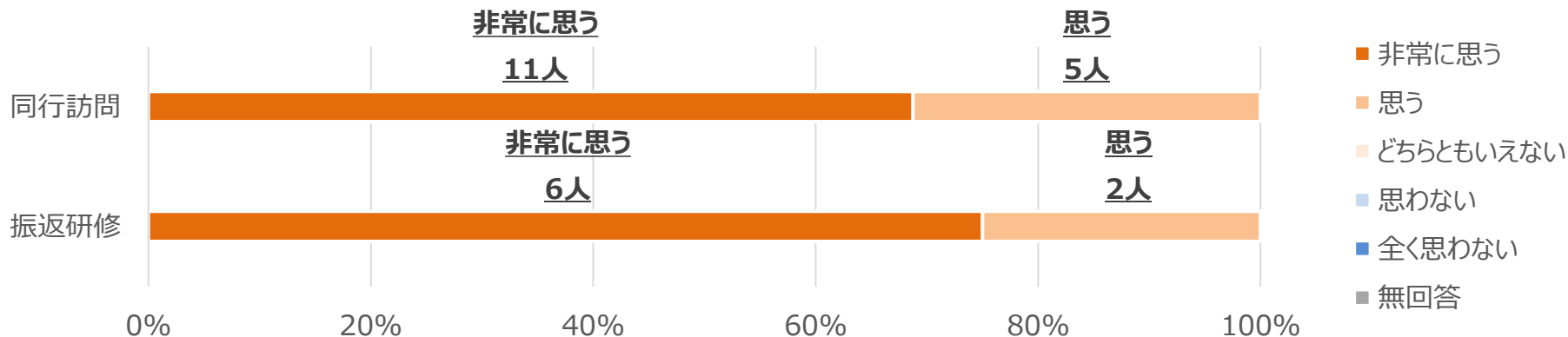
1. 振り返り研修がなければ、同行研修の振り返りはしないと思う。振り返るきっかけになった。
2. 続けて欲しいと思います。良い研修でした。
3. みんなの意見が聞いてよかった。様々なスタッフと直接ディスカッションできて勉強になった。
4. 意見がたくさん出るので、グループディスカッションの時間がもう少し欲しい。
5. 訪問看護師さんと病院看護師が退院までの間に関わることがあまりなく、ケアマネジャーに全てを任せていたが、もう少し気軽に連絡を取り合って良いことを知った。
6. 実際にどのようなサービスが有効に活用できるか、情報提供のタイミング等を話し合えて良かった。

※訪問看護側の感想 病院と訪問看護の連携の円滑化へ向けた期待

- 同行研修、振り返り研修に参加した訪問看護師全員が、本取組は在宅スタッフと病院スタッフの連携の円滑化に効果があると感じた。

在宅スタッフと病院スタッフの連携の円滑化に効果があるか？

	同行研修			振返研修		
	人数	割合	累積割合	人数	割合	累積割合
非常に思う	11人	68.8%	68.8%	6人	75.0%	75.0%
思う	5人	31.3%	100%	2人	25.0%	100%
どちらとも いえない	0人	-	-	0人	-	-
思わない	0人	-	-	0人	-	-
全く思わない	0人	-	-	0人	-	-
無回答	0人	-	-	0人	-	-



※訪問看護側の感想 同行訪問および振り返り研修に関する自由意見

同行訪問（一部抜粋）

- ・ 「入院している時はいつも不機嫌な顔で話もあまりしてくれなかったけど…、あの方の笑っている顔を初めて見ました。とっても良い顔してました。」と言われた時、自分が嬉しくなりました。
- ・ 実際退院されてきた患者様で困ったことや指導してほしいことなど聞かれました。現場の声をいろいろ汲み取っていただける良い機会でした。
- ・ 事前打ち合わせの時に学びたい内容（どのようなお宅に同行したいか）を聞いておけば良かったと後になって思いました。
- ・ 病院の先生にも訪問看護を知ってもらいたい。
- ・ 今回のような取組（頻回にはお互い時間的にゆとりがなく困難）を定期的に継続させてはと思います。
- ・ 利用者からもとても好印象でぜひまた来てほしいとの声がありました。1人でも多くの看護師の方々に訪問看護の良さを知っていただきたいです。
- ・ 1日でどれだけわかるのか、とは思いますが、それでも家での生活を見れるのは良いと思います。
- ・ 今回研修を受けた方が病院の他のスタッフへ還元していただくことで理解が深まることを期待します。
- ・ 訪問看護スタッフが病院に見学同行する。病院の最新治療等を知るため。
- ・ 訪問看護師も病院の連携室、退院支援（調整）部門の研修に行きたい。
- ・ 現在の研修の継続と、訪問看護や在宅医療にあまり関心が無い方の同行訪問への参加。
- ・ 同行後、意見交換する時間がもう少し待てればさらに有効かと思いました。

振り返り研修（一部抜粋）

- ・ 病棟スタッフからの直接的な意見が聞けて、とてもためになりました。
- ・ 今後も継続して研修をしていただけるとありがたいです。
- ・ 病院と訪問看護ステーションがディスカッションする機会があるとありがたい。在宅医療の導入のタイミングが早くなれば入院日数は減らせると思った。
- ・ 病院看護師の方がいつの時点で情報提供すれば良いのかと疑問があることを知れました。

次年度の方向性

平成27年度の実施結果および平成28年度の方向性

- 同行研修は参加者の満足度および通常業務への波及効果ならびに訪問看護ステーション側の期待度が非常に高い。
⇒ 院内での研修の周知方法の検討等を通じて、同行研修の参加病院数および参加者数の増加を目指す。
- 同行研修後に振り返り研修を実施することで参加者の学びが推進されることが期待される。
⇒ 同行研修後には振り返り研修を行うことを原則とする。
- 同行研修の研修生が同行を希望する利用者の特徴等を研修を実施する訪問看護ステーションと事前に情報共有することで、より研修生のニーズに即した研修内容となる。
⇒ 研修生のニーズを適切に汲み取り訪問看護ステーションに提供する仕組みを検討する。
- 今年度の同行研修の参加者は病棟看護師のみだった。病院の医師や連携室職員等も訪問看護の現場を見て理解を深めることで、退院連携がより推進されることが期待される。
⇒ 病棟看護師以外の病院職員の同行訪問への参加を促す。
- 在宅療養に関わるスタッフが病院の地域医療連携室や退院支援（調整）部門を見学し病院側の実状の把握することで、退院連携がさらに円滑化していくことが期待される。
⇒ 在宅療養に関わるスタッフ（訪問看護師等）による病院見学の事業化を検討する。